

B-45 衛生加工紙の実際応用に関する研究 ニトロフラン加工紙ナプキンの皮膚に及ぼす影響について
東京家政学院短大 ○吉田玲子 関東逓信病院 稻福盛栄

目的 予防衛生的見地及び使い捨ての簡便さから、衛生加工紙（紙おむつ、紙ナプキン）が広範囲に使用されている。

前回の実験において、加工効果（細菌の発育阻止効果）があると認められたものうち、今回はニトロフラン加工紙ナプキンをとり上げ、実際応用に際して、加工剤の皮膚に及ぼす影響について検討した。

方法 病院で出生した新生児をA、B、C 3群に分ち、出生直後より退院まで下記の要領でおむつを使用し、その間におけるかぶれの発生状況を比較検討した。

A群—布製おむつの上に加工紙ナプキンを重ねて使用する（111名）

B群—布製おむつの上に未加工紙ナプキン（紙質は加工紙と同じ）を重ねて使用する（108名）

C群—布製おむつのみを使用する（100名）

結果 A、B、C各群におけるおむつかぶれの発生率は、A 30.6%、B 31.5%、C 31.0%であり、統計的検定の結果、三者の間に有意の差は認められなかった。したがって、本実験においては、ニトロフラン加工紙ナプキン使用による皮膚への悪影響は特にないものと考えられる。